



今月の社長コラムは休載です。
社長がノベルズを立ち上げようと思ったきっかけから、現在に至るまで、ノベル(小説)形式で不定期に掲載していきます。

NOBELS Novel

「日本一の牧場は俺がつくる！」
まだ小学生だった雄一郎さんは、そう心に誓っていました。
現会長である邦彦氏は、当時、仲買人をしていたこともあり、邦彦氏と共に色々な牧場へ行くことができました。
「この牧場には、新しい機械がある！」「あの牧場は広い土地がある！」
なのに、なぜうちの牧場には機械も土地もないのだろう・・・」
小さな雄一郎さんは、「うちの牧場は負けている」と感じました。
負けず嫌いな雄一郎さんは、
「日本一になれば機械でも土地でも好きなだけ手に入れることができる！俺の勝ちだ！」
と、考えたのです。

1997年、日本一になるには、海外の事も学ばなくては！！
刺激的な日常を好む雄一郎さんは、アメリカへ旅立ちます。
期間は約一年。
雄一郎さんはアメリカで色々な事を学び、吸収し、帰国しました。

そして2001年。日本一の誓いを心を持ったまま23歳になった雄一郎さんは、延与牧場にいました。
当時、月に400頭ほど出荷し、年商も10億を超え、市場へ行けば、出場頭数の3分の1は買ってしまう延与牧場。

F1育成牧場として、既に日本一となった延与牧場に、少々物足りなさを感ずるようになっていました。
しかも、この日本一は自分の力ではなく、邦彦氏の力。
脱サラ後、苦労を重ね、努力してきた結果です。

ならば、今度は自分が、自分の力で、以前から興味があった肥育をやろう！
「肥育牧場としての日本一」になってやる。」
次なる刺激を求めたのです。

「難しいかもしれないけどやってみよう。」
邦彦氏に直談判する雄一郎さん。

しかし邦彦氏の返事は、さっぱりしたものでした。
「育成牧場として日本一の今、なにが不満なんだ？肥育牧場は、きつと苦勞する。育成牧場として成功してるんだ。これで充分だろう？」
それでも、雄一郎さんは納得しませんでした。

どうしても、自分の力で、日本一になりたいのです。

その頃、ホルスタインへ受精卵を移植して、和牛を産ませるといって、借腹事業が町内のJA全農ETセンターで始まっていました。

つづく

技能実習生情報

- 在籍人数 (現在)
- ・ デーリー5名 ・ ノベルズ1名
- 今後の受け入れ予定
- 2015/4/8
- ・ ノベルズ 1名
- ・ 延与牧場 2名
- 2015年6月頃～
- ・ デーリー 1名
- ・ ETS 3名

【2月末社員数】

- ノベルズ …73
- 延与牧場 …14
- イトラスト …15
- ETS …14
- デーリー …43
- ノベルズ食品 …4

2月末 163名

2月末の飼養頭数情報

ノベルズ F1 6,541 子牛 142 子牛(足寄) 15 探卵和牛 203 肥育和牛 58 足寄和牛 177 ホル 60 7,196頭	イトラスト F1去 223 メス 2,124 ホル 1 和牛去 63 メス 156 2,567頭
延与牧場 F1♂ 2,870 和牛♂ 107 2,977頭	ETS 和牛♂ 1,005 メス 1,082 2,087頭
デーリー 搾乳牛 890 乾乳牛 158 初妊牛 122 育成 56 子牛 126 1,352頭	会長 F1去 5 メス 10 15頭
グループ計 16,194頭	

Stock 約一年に及ぶ開発期間を経て事務所での利用が開始された **Stock(ストック)** 始めています

「ストックとは何でしょう？」
今年の一月に発行された、利用ガイドラインには、「ノベルズグループ各社の在庫管理する為」に開発された」と記載されています。
今までは担当者個人の管理だった在庫(エクセルデータ)を、ネットワーク共有して皆で管理しよう！ということなのです。
開発は主に、西谷哲也さん(写真)と、アートシステムさんが行っています。

今までの方法だと、同じ個体識別番号の牛でも各担当者の在庫上に存在し、同じ牛の在庫管理をそれぞれが行っていました。
また、牛の各成績なども別に管理されており、データが点在・混在していた為、担当者不在時にはデータが取り出せない等、困った事もありました。

まだストックの利用が始まってから日も浅く、エクセルからの完全移行には至っていないため、運用後の感想は、今後のお知らせをお待ちください。

